

不活化ポリオワクチン定期接種導入前後の ポリオの予防接種状況および抗体保有状況について ～感染症流行予測調査より～

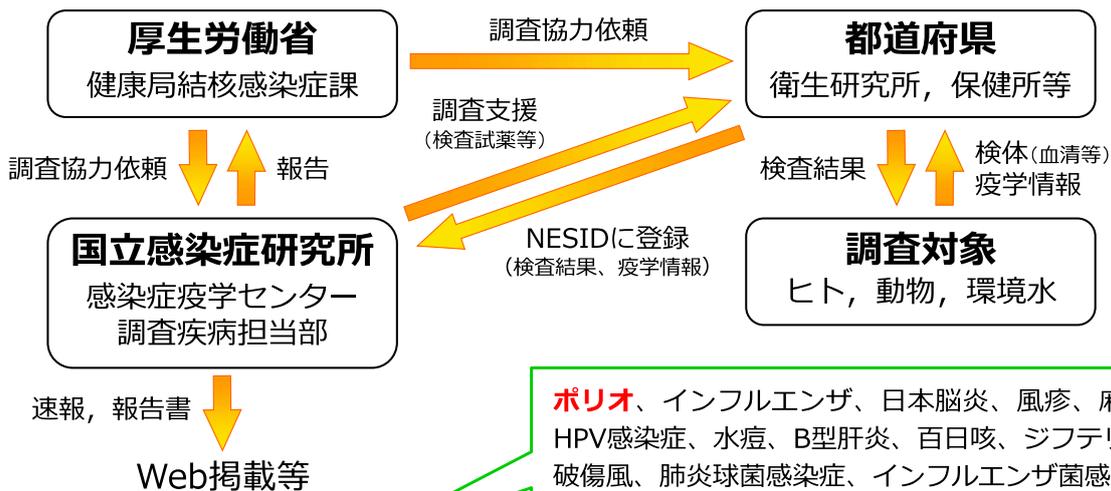
2009～2017年度 ポリオ感受性調査実施都道府県/都道府県衛生研究所

**北海道、山形県、群馬県、千葉県、東京都
富山県、愛知県、山口県、愛媛県**

**国立感染症研究所
ウイルス第二部、感染症疫学センター**

1

【感染症流行予測調査の概要】



定期接種対象疾患について調査

感受性調査 (抗体保有状況調査)

感染源調査 (病原体の検出・同定, 活動状況調査)

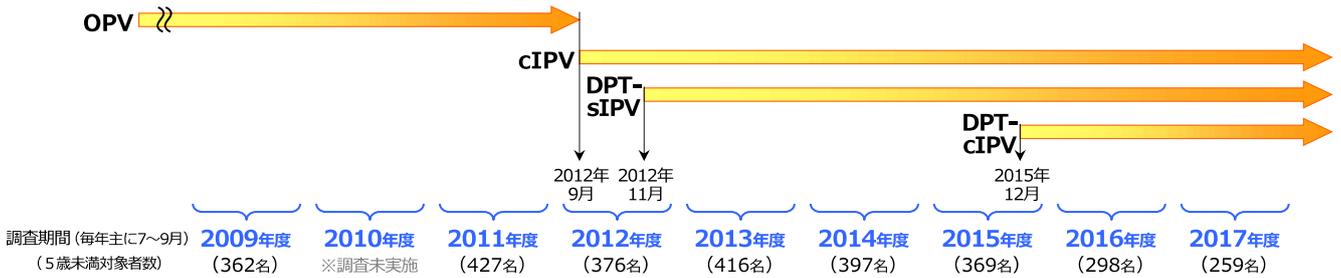
疫学情報 (地域, 年齢, 性別, 予防接種歴, 罹患歴等)

【ポリオの定期接種】

- ✓ 従来、経口生ポリオワクチン(OPV)による2回接種
 - ✓ 2012年 9月 不活化ポリオワクチン(cIPV ※強毒株由来)による4回接種に切り替わり
2012年11月 四種混合ワクチン(DPT-sIPV ※Sabin株由来)の使用開始
2015年12月 四種混合ワクチン(DPT-cIPV ※強毒株由来)の使用開始
- [接種回数 : OPV 2回 ⇒ IPV 必要なし、OPV 1回 ⇒ IPV 3回、OPV 0回 ⇒ IPV 4回]

【感染症流行予測調査：ポリオ感受性調査】

- ✓ Sabin 1～3型に対する中和抗体保有状況およびポリオワクチン接種歴の調査

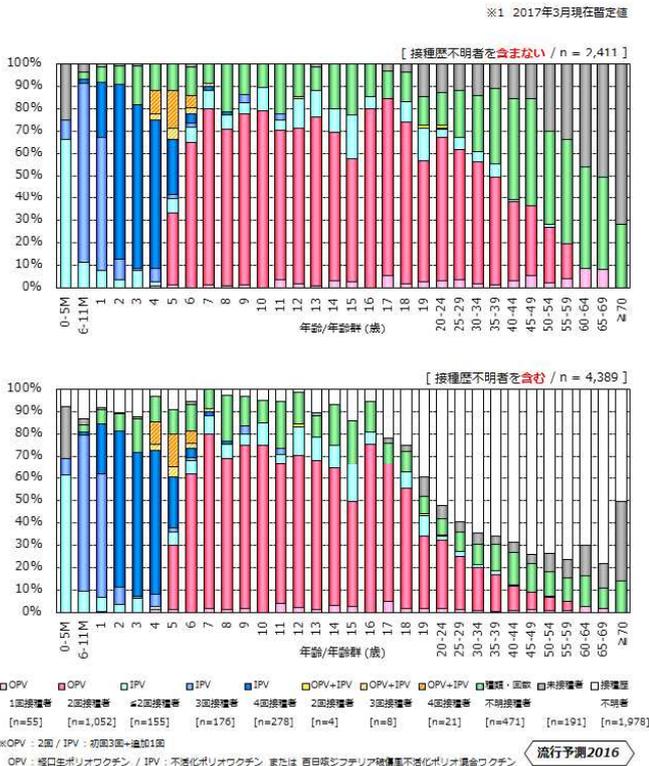


⇒ ポリオの予防接種状況・抗体保有状況について検討

- ① 5歳未満児の2009～2017年度の推移、② 10歳未満児の2017年度の状況

年齢/年齢群別のポリオ予防接種状況, 2016年^{※1}

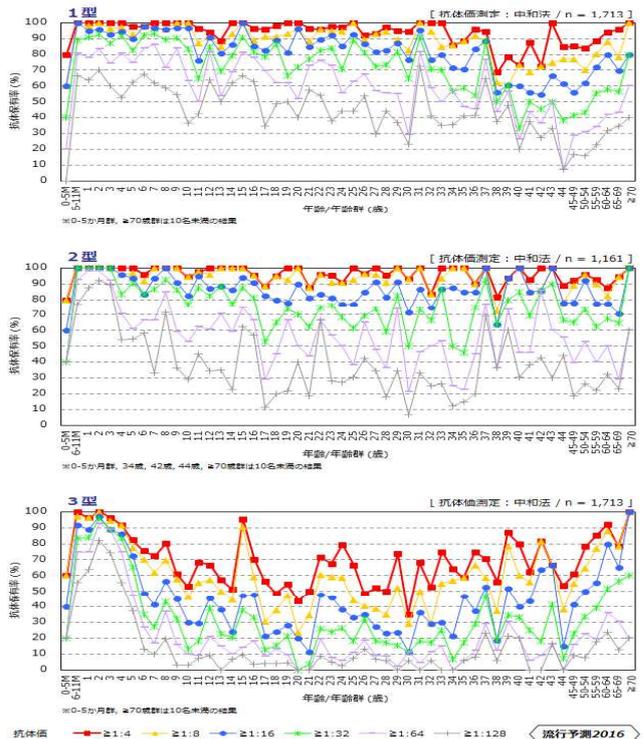
～ 2016年度感染症流行予測調査より ～



年齢/年齢群別のポリオ抗体保有状況, 2016年^{※1}

～ 2016年度感染症流行予測調査より ～

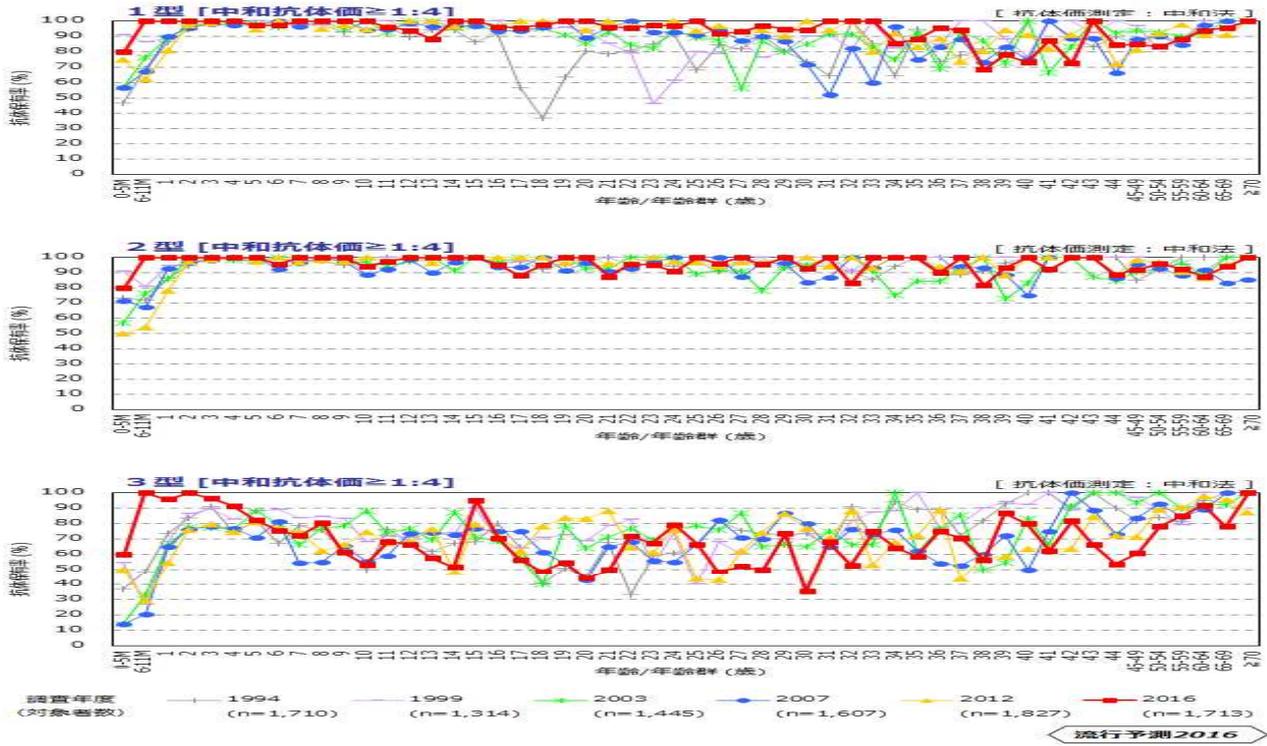
※1 主に2016年7～9月に採取された血清の測定結果: 2017年3月現在蓄定値



【2016年度ポリオ感受性調査実施都道府県】
北海道, 山形県, 千葉県, 東京都, 富山県, 愛知県, 愛媛県

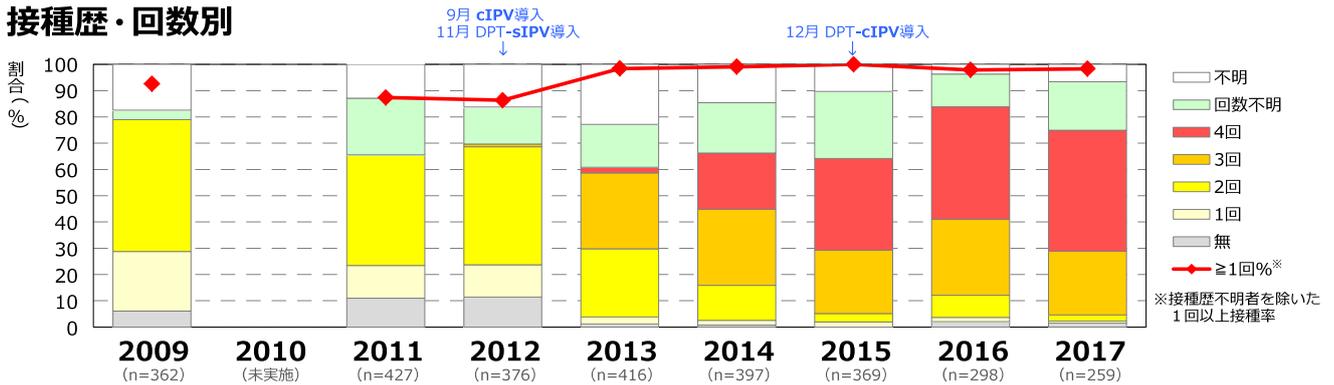
年齢/年齢群別のポリオ抗体保有状況の年度比較, 1994~2016年※1 ～ 2016年度感染症流行予測調査より ～

※1 2016年度は2017年3月現在暫定値

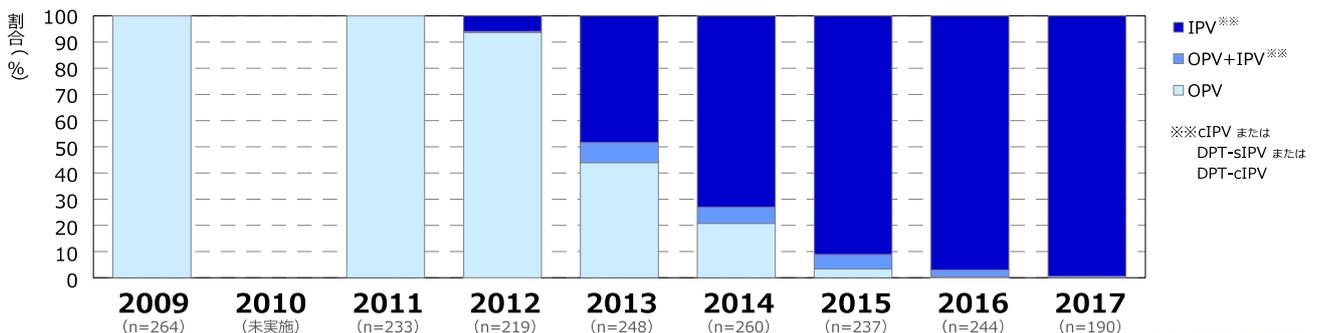


5歳未満児のポリオ予防接種状況, 2009~2017年度

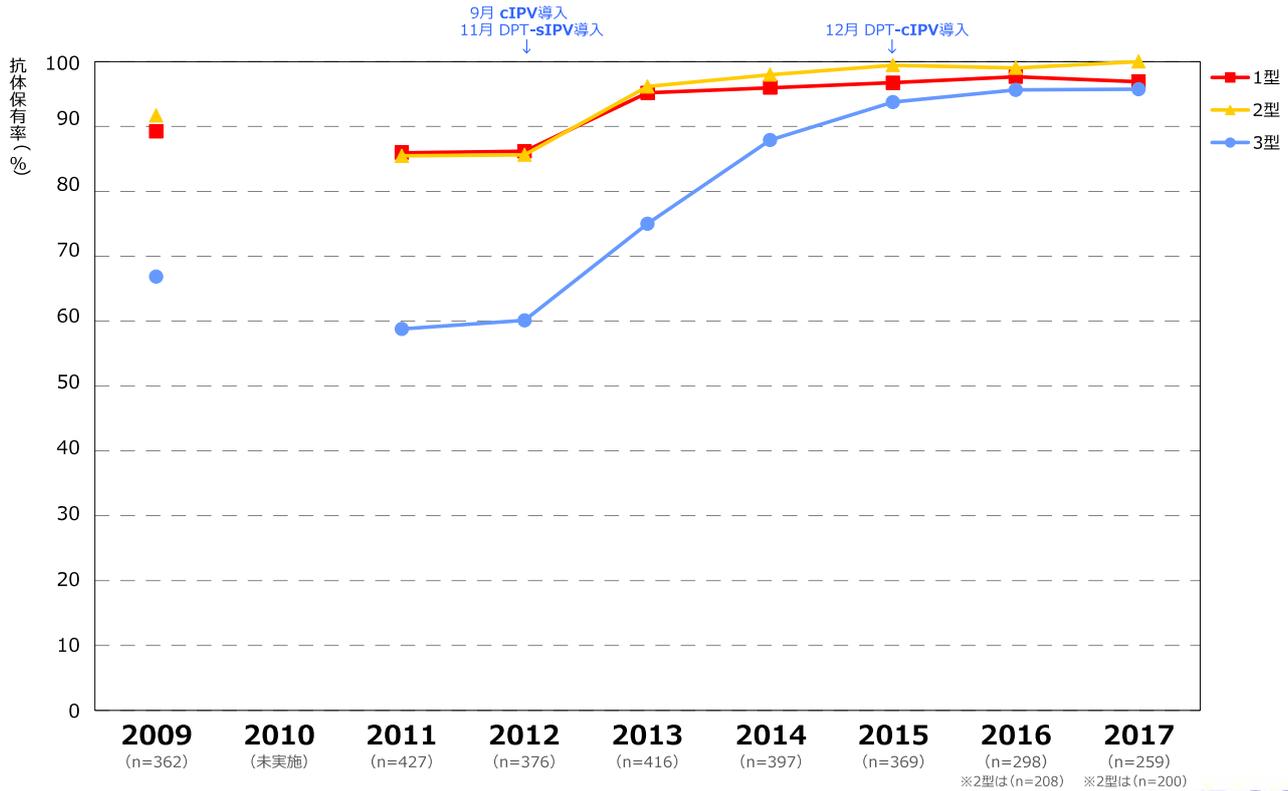
接種歴・回数別



ワクチンの種類別 (接種を受けたワクチンの種類・回数が明らかな者のみ)

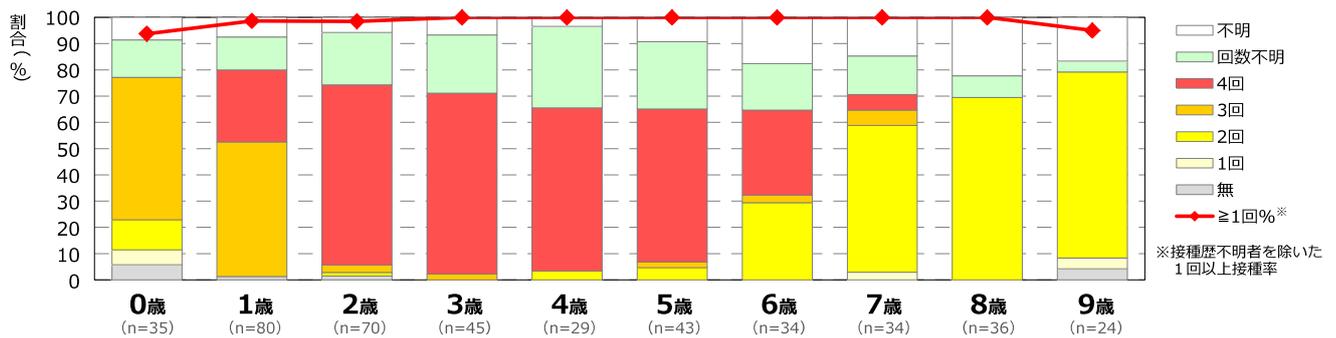


5歳未満児のポリオ抗体保有状況(中和抗体価1:8以上), 2009~2017年度

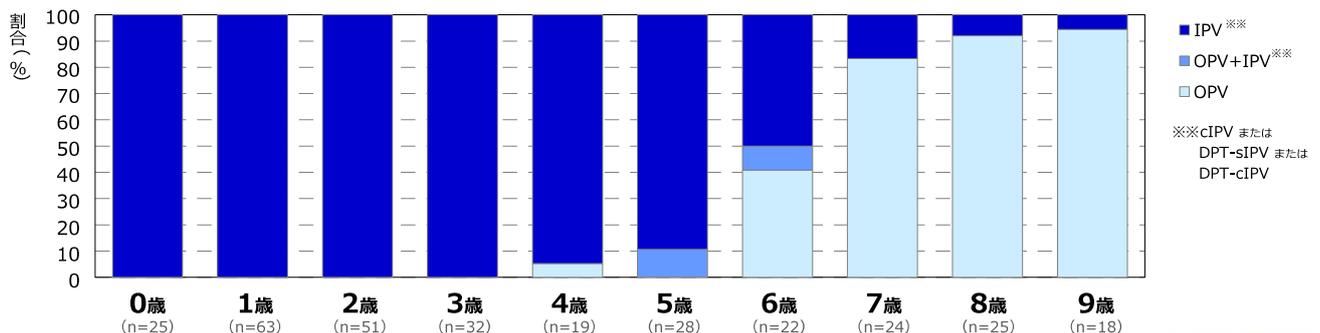


10歳未満児のポリオ予防接種状況, 2017年度

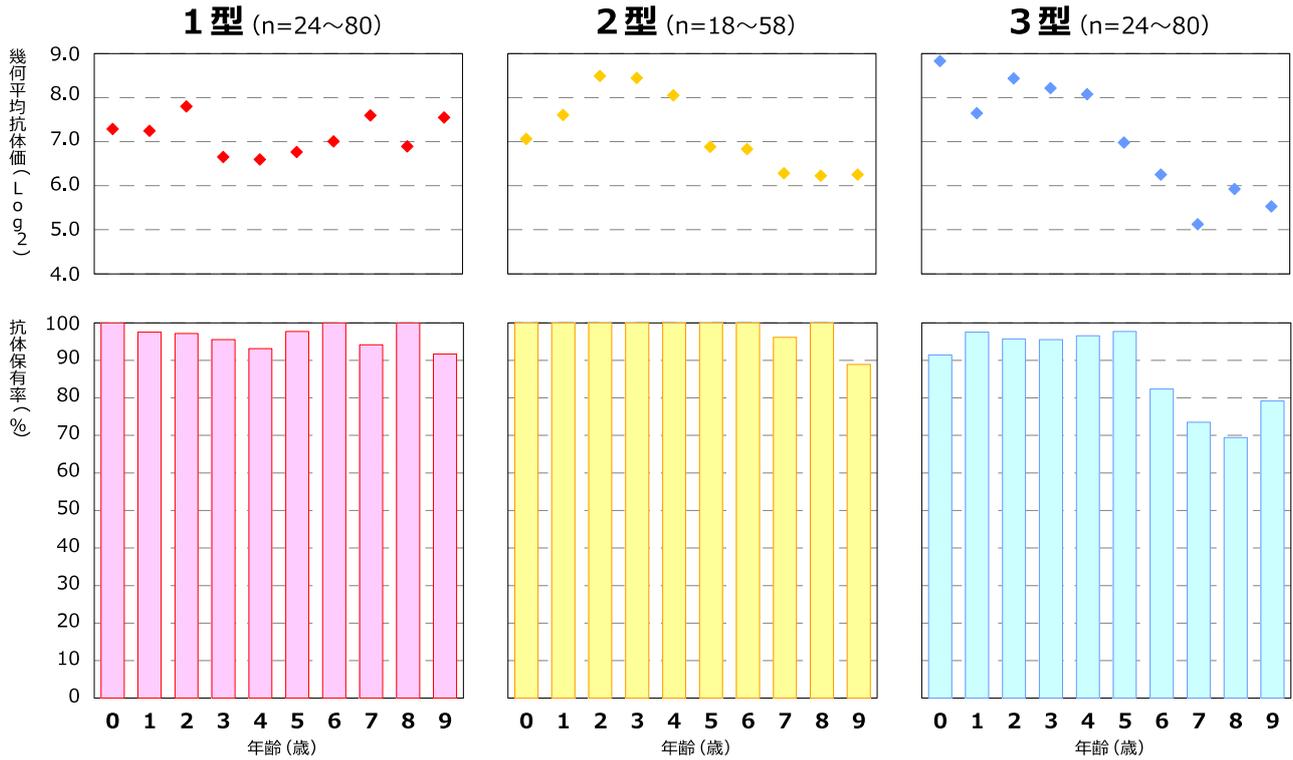
接種歴・回数別



ワクチンの種類別 (接種を受けたワクチンの種類・回数が明らかな者のみ)



10歳未満児のポリオ抗体保有状況(中和抗体価1:8以上), 2017年度

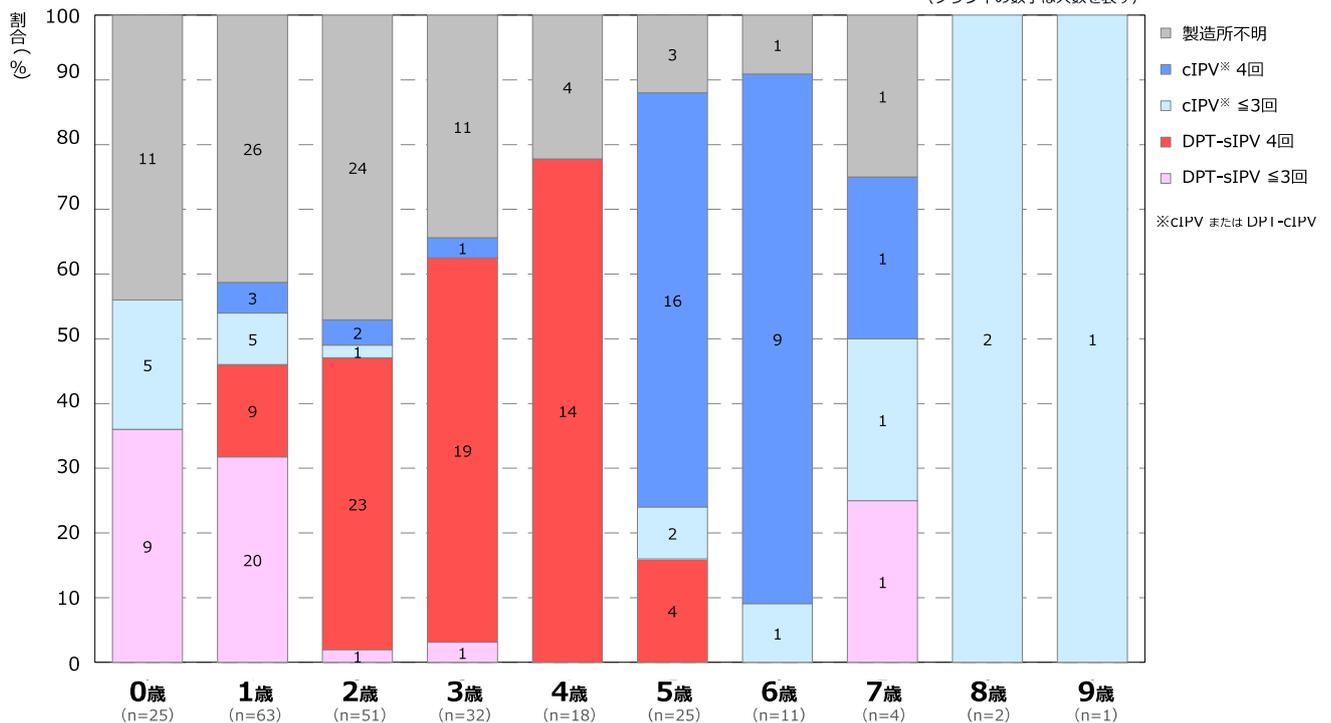


※幾何平均抗体価は中和抗体価1:8以上の者について算出

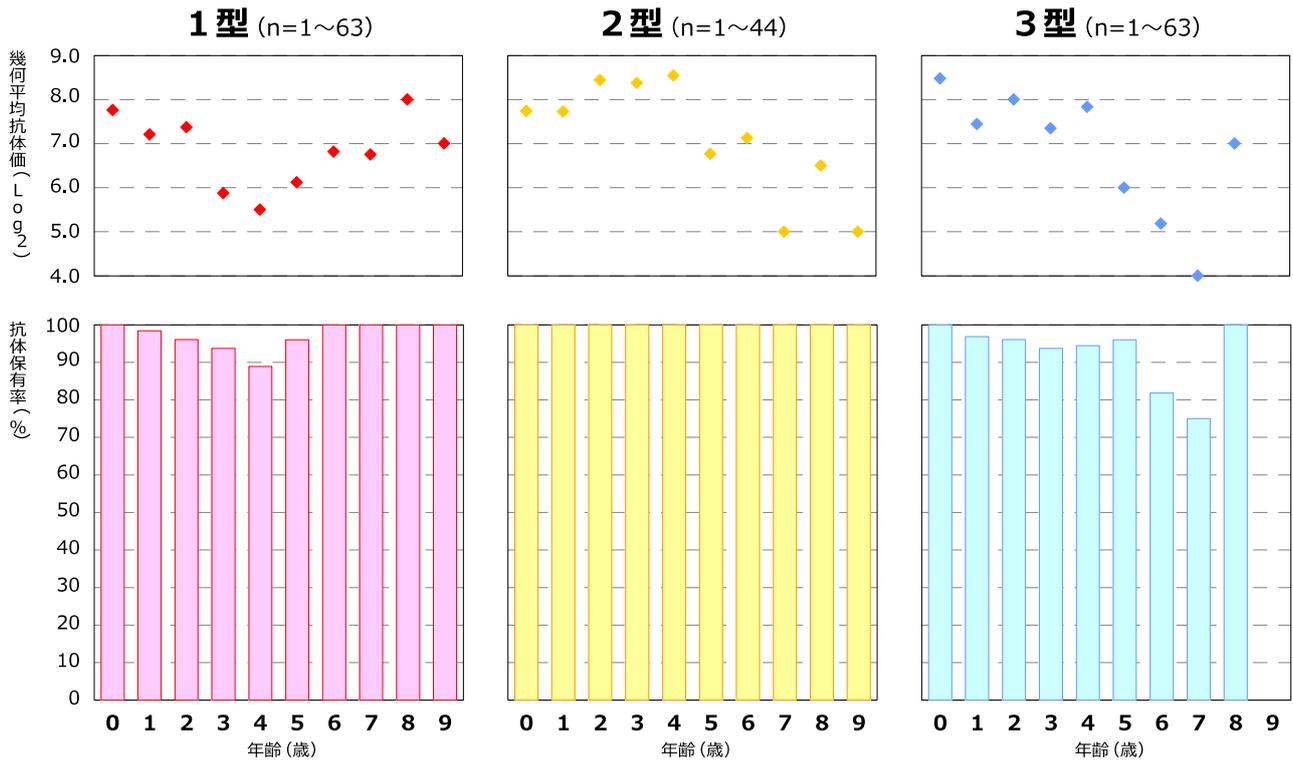
10歳未満児のポリオ予防接種状況(IPV被接種者のみ), 2017年度

IPVの種類別 (接種を受けたIPVの回数が見えない者のみ)

(グラフ中の数字は人数を表す)



10歳未満児 (IPV被接種者のみ) のポリオ抗体保有状況 (中和抗体価1:8以上), 2017年度



※幾何平均抗体価は中和抗体価1:8以上の者について算出